



とうえい

令和3年11月9日
東栄小学校
学校だより第7号

本の世界！

美しく風に舞う木の葉に秋の深まりを感じる季節となりました。10月には、6年生が奈良・京都への修学旅行へ行き、5年生が郡上八幡自然園での林間学校を実施しました。家庭や学校を離れ、慣れない場所での活動でしたが、自分の仕事に責任をもって取り組んだり、秩序を守って人のために動いたりしたことにより、仲間と共に過ごす素晴らしさや協力することの大切さなど、多くのことを学びました。今回の経験をこれからの学校生活に生かし、高学年としての自覚ある行動に結びつけ、活躍してくれることを期待しています。



さて、11月8日（月）～19日（金）は、コスモス読書週間です。「ペラッ」いつも通りに本のページをめくると、そこは、本の中に出てくる人々や動物、植物などがいるような世界であり、まるで本当に生きているようで、今にも飛び出してきそうな感じではないでしょうか。ちがうページをめくると、今度はちがう場所があらわれ、「銭天堂」のお店や「ナルニア国物語」の国があったり、発明王エジソンや世界初の女性医師エリザベス・ブラックウェルなど、すごいことをした人たちを本の中で見つけたりしたことを教えてくれた子がいます。朝の読書タイムにおける子どもたちは、静かな空間で時間を忘れ、穏やかな気持ちで本を読み、幸せな気持ちを抱いているように見えます。

いつ、どこにいても本を開けば、いろいろな国や地域、時代に行くことができます。私の読書が好きな理由はたくさんありますが、最も大きな理由は価値観や考え方が変化していくところです。悩んでいる時にアーネスト・ヘミングウェイが書いた「老人と海」という本に出会いました。自然の驚異に人間らしく立ち向かっていく一人の漁師の物語です。孤独な中でも巨大なカジキという大魚を仕留めた老人と、その弟子の少年が老人を思う気持ちに魅了させられました。この「老人と海」を読んだ後には、荒波の中で戦い抜いた老人の姿が目に焼きつき、周囲の人への感謝の気持ちが足りていないことに気づきました。ちょっと心が弱くなった時とか、どうにもならない虚しさを感じた時には、この老人の姿が勇気を与えてくれるような気がします。本には、無限のパワーがありますね。

～創立70周年今昔物語その6～

昭和53年に行われた持久走大会の様子です。東栄小学校をスタートして、旭台の坂をかけたのぼり、ゴールするまであきらめずに粘り強く走る姿は素敵ですね。



(校長 井田 寿)